

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス カナリヤ		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日 ~ 令和7年12月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日 ~ 令和7年 12月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの気持ちに丁寧な耳を傾けながら支援計画を作成している。できあがった支援計画を全員で共有し、内容を意識しながら日々の様子を保護者の方にお伝えしている。	連絡帳やSNSで様子を丁寧にお伝えし、HPでは全体の活動の様子をお伝えしている。日々、支援者が共通した支援を行えるようミーティングや職員会議の時間を大切にしている。	SNS、HPIについては、その旨を保護者の方により浸透するようにお便りなどに記載してお伝えする。
2	毎月、火災・地震・水害・不審者対応など様々な状況想定した避難訓練を継続的に実施している。	利用児童一人ひとりの特性や理解度に配慮し、無理のない形で訓練を行うことで、非常時にも落ち着いて行動できるように取り組んでいる。	今後は、災害の種類や状況をより具体的に想定した避難訓練を行うとともに、利用児童一人ひとりの特性に応じた支援方法を工夫していく。また訓練後の振り返りや保護者への情報共有を充実させ、より実践的で安心につながる防災体制の構築をめざしていきます。
3	イベント等において、限られたスペースを有効活用し、空間に応じた内容を工夫しながら活動を行っている。	狭く感じられる場合もあるが、事前に活動内容や導線を十分に検討することで狭さを感じず、利用児童が安全かつ落ち着いて参加できるようにしている。	限られたスペースの中で、特性を踏まえ、活動人数や時間帯を調整した小集団のイベント実施や、可動式備品を活用した環境構成の工夫を進めていく。併せて、事前の導線確認や職員間の共有を徹底し、安全で参加しやすいイベントのさらなる充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちが「もっといきたい」「楽しい」「ここは自分の居場所だ」と全員に感じてもらえるような工夫や改善の余地がまだあると感じている。	子供たちが受け身ではなく主体的になれるような支援や、「楽しい」「安心できる」「また来たい」と感じられる体験、関係性を十分に積み重ねていく必要がある。	選択できる活動の提供や成功体験の積み重ねを大切にしていってほしい。今後は、安心できる環境づくりや個々の興味関心を取り入れた活動をさらに充実させ、利用児童が自分らしく過ごせる居場所づくりを目指していきます。
2			

3			
---	--	--	--